

京都府の地震活動

令和2年（2020年）1月

第 33 卷 第 1 号

京都地方気象台

目 次

震央分布図、概況	・・・ 1
震央分布図、断面図	・・・ 2
【地震一口メモ】2018年6月18日 大阪府北部の地震について⑧	・・・ 3

『京都府の地震活動』は、京都府及びその周辺の地震活動状況を解説するとともに、地震防災知識の普及に資するため、毎月刊行しています。

本誌に掲載した震源要素、震度データは、再調査された後、修正されることがあります。

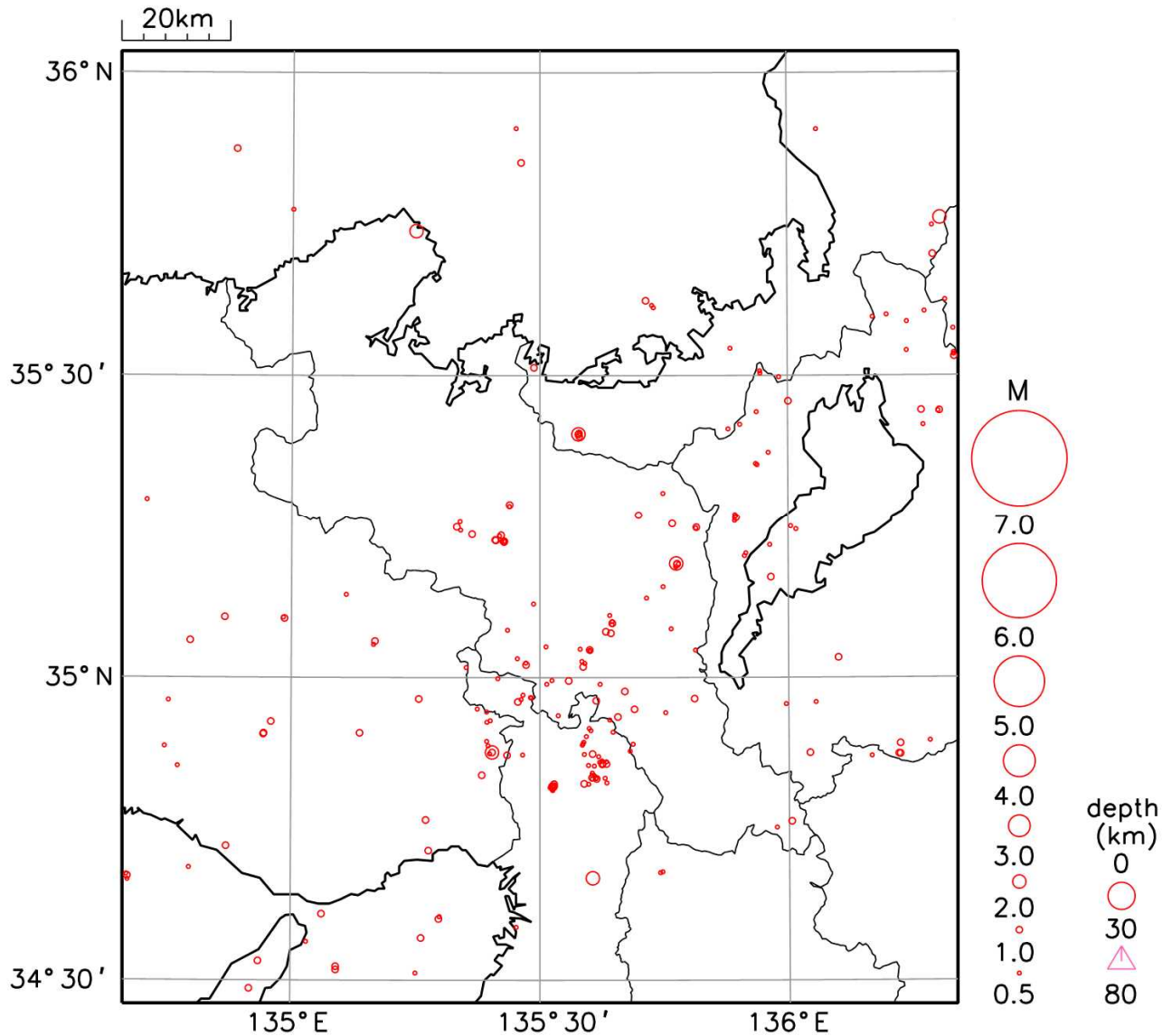
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

震央分布図（マグニチュード0.5以上、深さ0～80km）

2020 01 01 00 : 00 - 2020 01 31 24 : 00

総数 : 224



- ・震源の深さを表す「○、△」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに応じたサイズで表記。
- ・震度1以上を観測した地震には、日時、深さ、マグニチュード（M）及び京都府内で震度を観測した地震については京都府内最大震度を付記。

概況

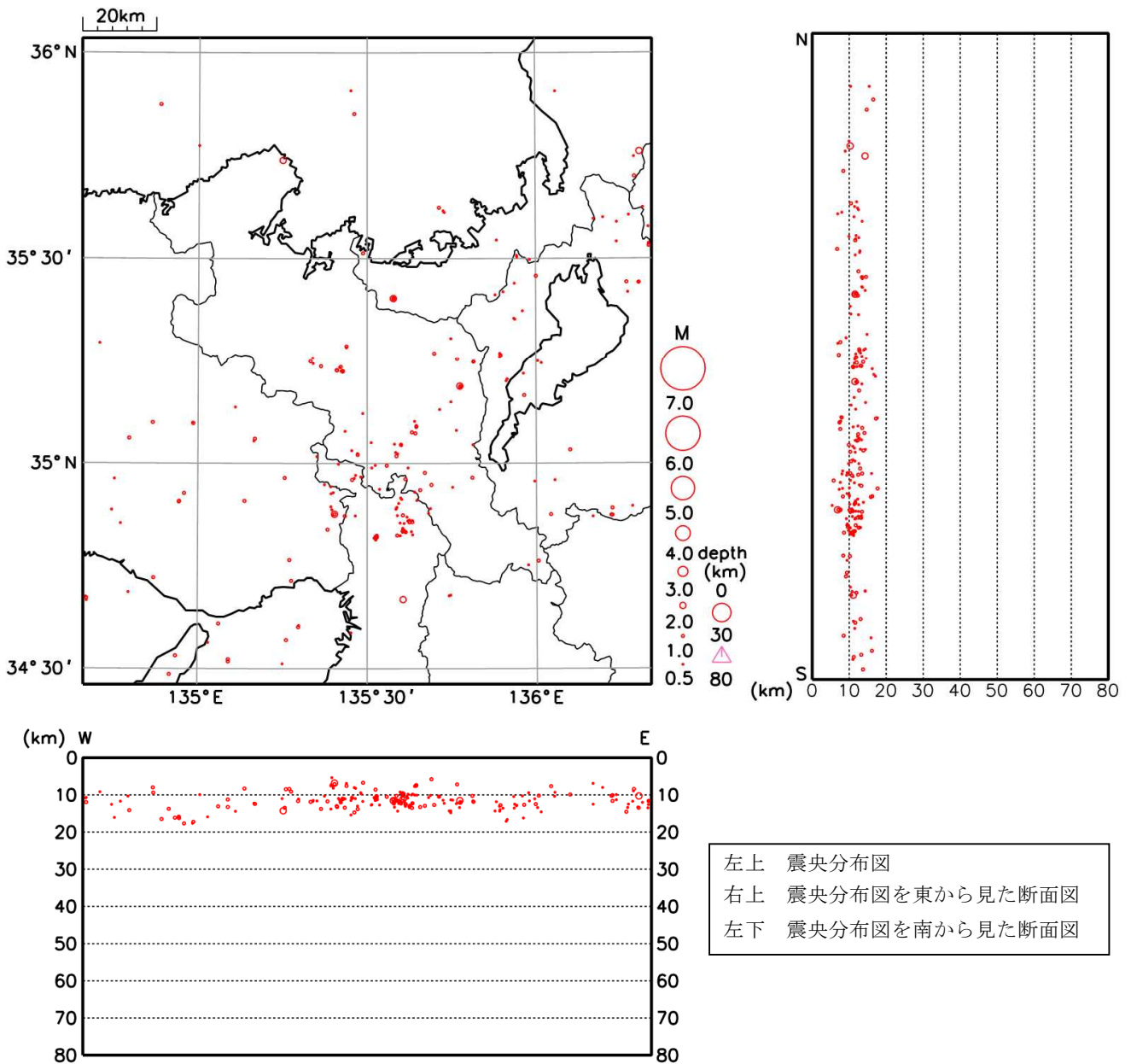
1月中、震央分布図内で観測したマグニチュード2.0以上の地震は6回、震度1以上の揺れを観測した地震はありませんでした（12月はそれぞれ7回、0回）。

京都府内で震度1以上の揺れを観測した地震はありませんでした（12月もなし）。

震央分布図、断面図（マグニチュード0.5以上、深さ0～80km）

2020 01 01 00 : 00 - 2020 01 31 24 : 00

総数 : 224



左上 震央分布図
 右上 震央分布図を東から見た断面図
 左下 震央分布図を南から見た断面図

- ・震源の深さを表す「○、△」の記号は、マグニチュード (M) の大きさに対応したサイズで表記。
- ・震度1以上を観測した地震には、日時、深さ、マグニチュード (M) を付記。

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）です。

【地震一口メモ】

2018年6月18日 大阪府北部の地震について⑧

2018年6月18日に大阪府北部で発生した最大震度6弱の地震では、死者6人、負傷者462人、住家全壊21棟、住家半壊483棟などの被害が発生しました（2019年8月20日13時00分現在、総務省消防庁による）。この地震は「平成7年（1995年）兵庫県南部地震」や「平成28年（2016年）熊本地震」と同じく、陸域の浅い場所で発生した地震でした。

下表のとおり、地震発生から約1年半となる2019年12月31日までに、この地震の震源周辺（図1の領域a内）で震度1以上を観測した地震の回数は80回でした。

表 最大震度別地震回数表（図1の領域a内） 2018年6月18日～2019年12月31日

期間	震度1	震度2	震度3	震度4	震度5弱	震度5強	震度6弱	震度6強	震度7	合計
2018年6月18日～12月31日	46	16	6	1			1			70
2019年1月										0
2月										0
3月										0
4月										0
5月	2		1							3
6月	3									3
7月										0
8月	1	1								2
9月										0
10月		1								1
11月		1								1
12月										0
合計	52	19	7	1	0	0	1	0	0	80

図2をみると、地震活動は減衰傾向にあります。この地震が発生する前と比較すると活発な状況が続いていることがわかります。今後もこのような状態が当分続くと考えられます。また、この地震の周辺には、有馬一高槻断層帯、上町断層帯、生駒断層帯など複数の活断層帯があることにも留意が必要です。日本国内では、いつどこで強い揺れを伴う地震が発生してもおかしくありません。引き続き、日頃からの地震への備えを心がけてください。

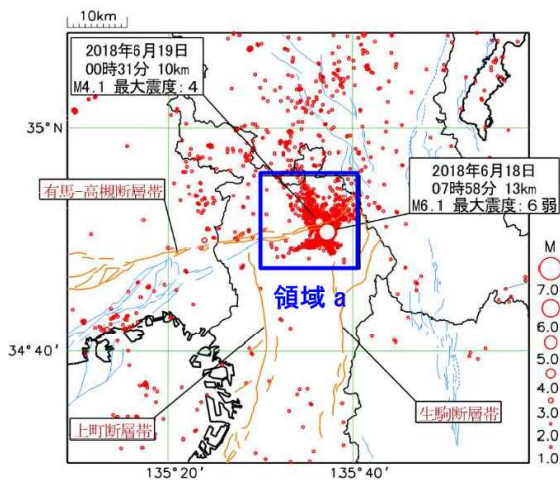


図1 震央分布図

2018年1月1日～2019年12月31日
深さ0～20km、マグニチュード(M)1.0以上
※橙色、水色の線は地震調査研究推進本部の
長期評価による活断層を示す

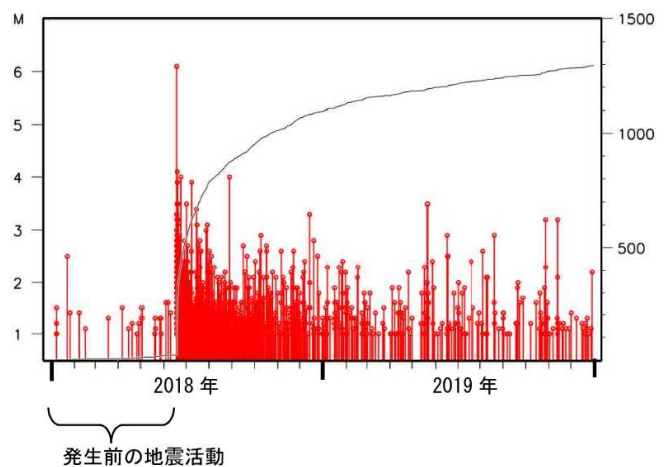


図2 図1の領域a内の地震活動経過及び回数積算図

横軸は時間、縦軸は左がマグニチュード、右が地震の積算回数。
折れ線は地震の回数を足し上げたものであり、縦棒のついた丸
は地震発生時刻とマグニチュードの大きさを表す。